

新潟地震の時は…

- ・特に建物の被害はなかった
- ・液状化で水が噴き出したところがあった
- ・津波が信濃川大橋のところに30センチくらい来た

地域の社会特性

- ・信濃川の東側に位置する、田園に囲まれた地域で、低平地が広がる
- ・沿川側、時間の経過とともに浸水する地区、避難受け入れ地区にわかれている
- ・田園が多いことから、川から離れるためには、田んぼのあぜ道を渡るしかない
- ・旧部落は地盤が強い
- ・昔はほとんどの地域が沼地で、家が建った所はほとんどが埋立地
- ・ちょっと土を掘ると水が出る

地域の被害特性

- ・高層マンション（団地）に5000人が居住
よって、近くの避難ビルに全員が逃げることはムリなので、要援護者の人たち優先で避難させるの
いいかも？
- ・おそらくまた大地震がくると液状化になるはず
（以前がそうだったように…）液状化の影響で、
建物が傾く心配がある
- ・大きな地震や津波の場合、鳥屋野潟はどうい
う状況になるか？
- ・昔、曾川切れ（過去の洪水）で池ができた
- ・また、曾川切れのときは、1m20cmぐらいまで
水が上がった

各ブロックごとの具体的な避難方法

ブロック	特徴	期待される避難行動	避難目標
A	・沿岸・沿川地域で赤地（30分未満）	<ul style="list-style-type: none"> ・短時間で浸水が始まるため、出来るだけ早く川から逃げる ・高速道路を第1目標として避難する ・その後、白地であるエコスタジアムを第2目標として目指す ・要援護者にとっては、目標まで距離があるので、ある一定の高さを確保している近くの排水機場が候補としてあげられるが、避難場所としては適切な場所とは言えず、避難が困難なブロックと想定される 	第1目標：高速道路 第2目標：エコスタジアム
B	・沿岸・沿川地域及び河川遡上（主に30分以上120分未満）を含む、低平地浸水区域	<ul style="list-style-type: none"> ・沿川に住んでいる住民は、早急に川から離れ、バスが通る主要道路を使い、東側にある市営住宅（津波避難ビル）を第1目標とする ・ただし、市営住宅の地域も低平地浸水地域であるため、移動時間を考えて早めに、より東側の東曾野木小学校を第2目標、そこから白地であるエコスタジアムを目指す 	第1目標：曾野木住宅 第2目標：東曾野木小学校 第3目標：エコスタジアム
C	・河川遡上（主に30分以上120分未満）を含む、低平地浸水区域	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅が多くある低平地は、長期間の浸水が想定されていることから、孤立をさげ、南側に位置する白地地内の曾野木小学校を第1目標とし、避難する 	第1目標：曾野木小学校
D	・避難者受け入れ地域（かつて川が通っていた地域）	<ul style="list-style-type: none"> ・白地であり、避難者受け入れ地域だが、液状化地域であり、状況を見て避難する ・他ブロックから避難する人のために、まず曾野木小学校を活用するが、状況に応じて、近くの曾野木中学校にも分散させる。場合によっては、舞平清掃センターの活用も検討する 	第1目標：曾野木小学校・曾野木中学校 舞平清掃センター
E	・低平地浸水地域（120分以上）	<ul style="list-style-type: none"> ・河川から離れており、時間の経過と共に徐々に浸水が予想されるため、孤立しないよう、近くの東曾野木小学校ではなく白地のエコスタジアムを目指す ・東曾野木小学校は、他ブロックからの受け入れと要援護者用と考えておく 	第1目標：エコスタジアム (要援護者：東曾野木小学校)